

(別紙様式3)

令和6年度あいちラーニング推進事業研究報告書【重点校】

学校番号 74

学校名 愛知県立半田高等学校

校長氏名 林原 健二

研究責任者職・氏名	教諭・山下 勝	
研究テーマ	主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業と指導	
本年度の研究目標	(1) 身につけさせたい力に応じた授業展開の工夫と改善 (2) 指導と評価の一体化に向けた授業内外の活動とそのフィードバックの方法の工夫と改善 (3) 公開授業を通じた授業改善と振り返り (4) ICT機器の効率的な活用方法の研究	
研究の実施内容		
実施月日	内 容	備 考 (対象生徒等)
令和6年5月30日	あいちラーニングに関する目標と取組の共有 ・職員会議にて研究目標を共有し、各教科内での授業計画等の検討を開始した。	全教職員 各教科
7月 9月19日～	1学期授業アンケート 授業アンケート結果の共有と分析 ・1学期授業アンケート結果を共有し、その結果を受けて各教科での授業や活動の改善を検討した。	全生徒 各教科
10月15日～25日	授業公開週間 ・全教員がその日の授業で育てたい力を設定し、それを実現するための授業展開を計画・公開し、見学した教員からのフィードバックを行った。また、24日、25日は一般公開とし、保護者や小中学校の教員にも公開した。	全教職員
10月25日	主幹校教諭訪問と情報交換等 ・公開授業を参観していただき、指導・助言をいただいた。	担当職員
12月 1月30日～	2学期授業アンケート 授業アンケート結果の共有と分析 ・2学期授業アンケートを共有し、1学期の結果を受けた取り組みを踏まえて、アンケート結果の分析と来年度に向けた検討を行った。	全生徒 各教科
2月 3月	今年度のまとめと情報共有 ホームページへの掲載、主幹校への報告	全教職員

## 研究成果の評価及び普及・還元に関する実績

### 1 本年度の取り組みについて

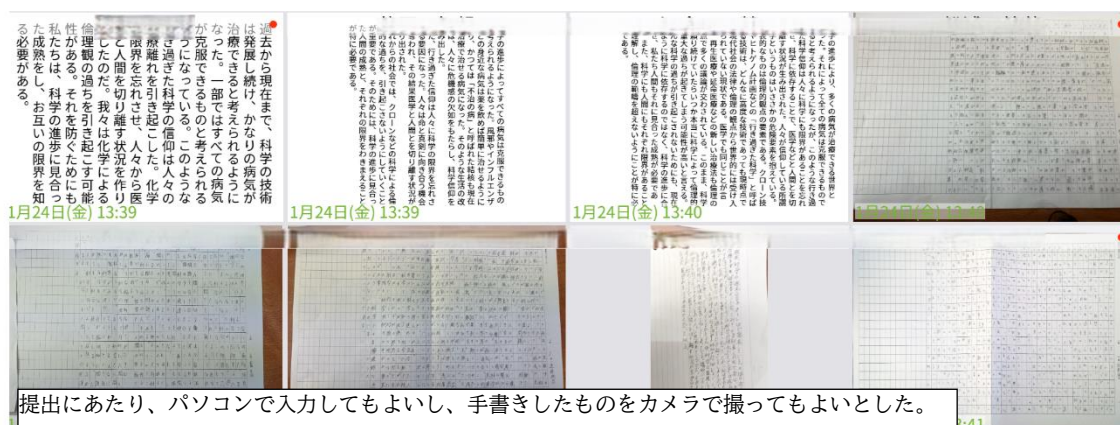
主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善と観点別評価の実施に関して、本校では、「半田高校で身に付けさせる10の力」を設定し、それを実現するための授業展開と評価、フィードバックの改善を目指している。あいちラーニング推進事業に関連して、10の力を育てるための授業展開に加え、ICT機器の活用と育つ力も意識した検討を各教科で検討、研究し、その実施と改善に取り組んだ。各学期に行う授業アンケートの結果を科目ごとにまとめ、それを踏まえて取り組みの効果の検証とさらなる改善に向けた検討を各教科で行った。

### 2 各教科の取り組み

今年度の取り組み等を各教科がまとめ、簡潔に報告してもらった。

#### 【国語】

授業中に生徒が活動できる機会を増やし、授業の中で力を身につけさせることを主眼に置いて日々取り組んだ。活動にあたって、多くの科目でICTツール「ロイロノート」を活用した。これまでは、せっかく生徒が活動をしてその成果を生徒同士で共有することが難しかったが、ロイロノートは生徒の答えをリアルタイムで集約したり、クラス全体で共有したりすることを可能にしてくれる。画像は、授業中に組み合わせた作文をロイロノートの「提出箱」機能を使って集約した場面である。



こうしたツールによって、生徒主体・言語活動主体の授業づくりがしやすくなっている。ただし、現状は「生徒に活動させること」ばかりが先行し、その次に来るべき「活動させたうえでどのような力を育てるか」という段階にまでは、十分に至ることができていないこともしばしばである。どのような力を養成したいのか、そのためにはどのような授業をすればよいのかを、引き続き教科全体として研究していきたい。

#### 【地歴公民】

##### (1) 身につけさせたい力に応じた授業展開の工夫と改善

公共の授業において、「知識・技能」を習得させるために多くの時間を費やし、「思考・判断・表現」を見る活動が少ないことに課題を感じていた。一方で、思考のためにはある程度の知識が必要なので以下のような工夫をした。

①教科書の内容を説明するのではなく、生徒に教科書の内容をプリントにまとめさせる。その後、プリントを見て、ペアで「協働ワーク」に取り組ませた。協働ワークとは、教科書の内容が理解できているかチェックできるものになっている。

②習得した知識を活用し、思考・判断・表現できるようなワークに取り組ませた。

各単元において上記①→②で授業を展開した。上記①で費やす時間は、教科書6ページ分で30分程度である。このことで、思考・判断・表現を見る時間を確保することができた。今後はより良い問いを考案することが課題であると感じている。

倫理の授業では、授業の冒頭に「なんでも正解を出してくれるロボットがいたら首相をそのロボットにまかせられるか」というような思考実験的な活動を行い、意見交流を行った。授業内容以外にも正解がない問いに対して自らの考えを構築する力を養うというねらいと、他者の意見を聞くことで自らの意見・考えをブラッシュアップさせるねらいがある。課題としては評価をする際にどうしても、教員の主観になってしまう部分があるので、生徒間で評価しあえるようなものにできれば、教員と生徒間という多くの視点での評価が可能になると考える。

(2) 指導と評価の一体化に向けた授業内外の活動とそのフィードバックの方法の改善と工夫  
先にあげた倫理の思考実験的な活動を評価する場合、教員の主観になってしまう部分があるので、生徒間で評価しあえるようなものにできれば、教員と生徒間という多くの視点での評価が可能になると考える。

また、年2回の授業アンケートにおいて、昨年度の結果は授業担当者によってばらつきがみられた。そこで今年度の公共の授業では、使用するプリントを統一した。また、評価方法についても担当者間ですり合わせた。この取り組みは授業展開の自由度を下げることになるので、今後さらに検討を重ねたい。

(3) 公開授業を通じた授業改善と振り返り

衆議院選挙の時期だったのでポートマッチを使って選挙について具体的に考えると同時に、社会の諸問題について自分の意見を考えることができた。ただ、時間が足りなくて考えるだけで終わってしまうという課題もあったので、意見交換できる時間を別途確保する必要があると考えた。

(4) ICT機器の効率的な活用方法の研究

Teamsの付箋機能を使って発表に対して気づいたことを書かせた。気づいたことを一目で見ることができ、迅速なフィードバックにつながった。これからの課題としては、記述させる内容をもっと具体的な改善策などにさせたいので、事前に指導が必要だと考える。

また、授業で扱った映像・音声等をTeamsで共有した。それを見て、興味を抱いた生徒が配信した映像等以外のものを調べるなど、主体的な学習を促すことにつながった。

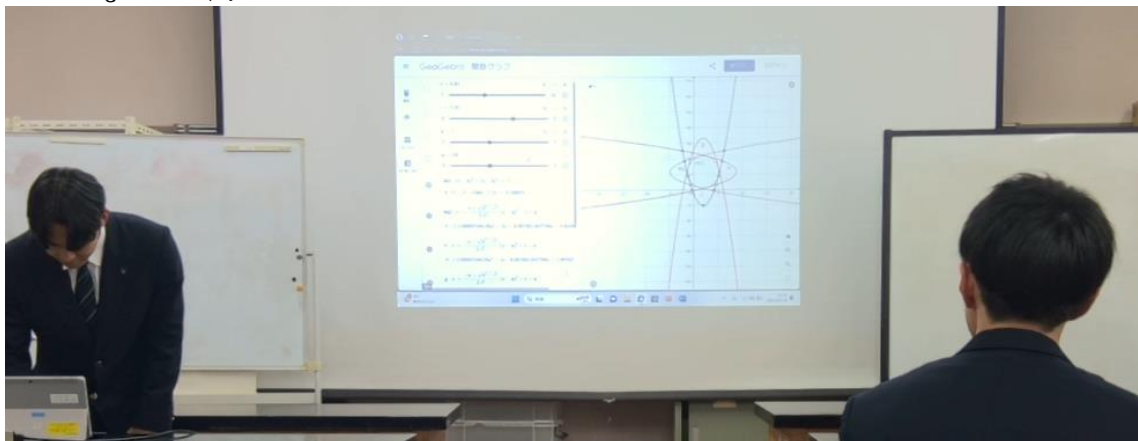
#### 【数学】

授業に合わせて板書と画面表示を比較し、適切な場面を選択し投影装置としての利用を行った。特に図形の表示や確率統計などでは効果が大きかった。また、演習型の授業ではロイロノートを利用して生徒の解答を投影しながら、生徒が説明し質疑応答を行った。またその解答データの共有や振り返りに活用した。

生徒が使用する場面としては、複雑な計算やシミュレーション、実験や、数学的な探究活動のための検索、成果発表などにタブレットを活用させた。

(複雑な計算やシミュレーション、実験についての例)

・Geogebraを用いたシミュレーション



- ・カルダノの公式や桁数の大きな数の開平などの計算
- ・ビュフォンの針について自作プログラム（Python）で実験し、 $\pi$ の近似値を算出
- ・確率統計の実験としてプログラムで作成した疑似的なサイコロを振らせ、大数の法則や推定について実感をもたせる

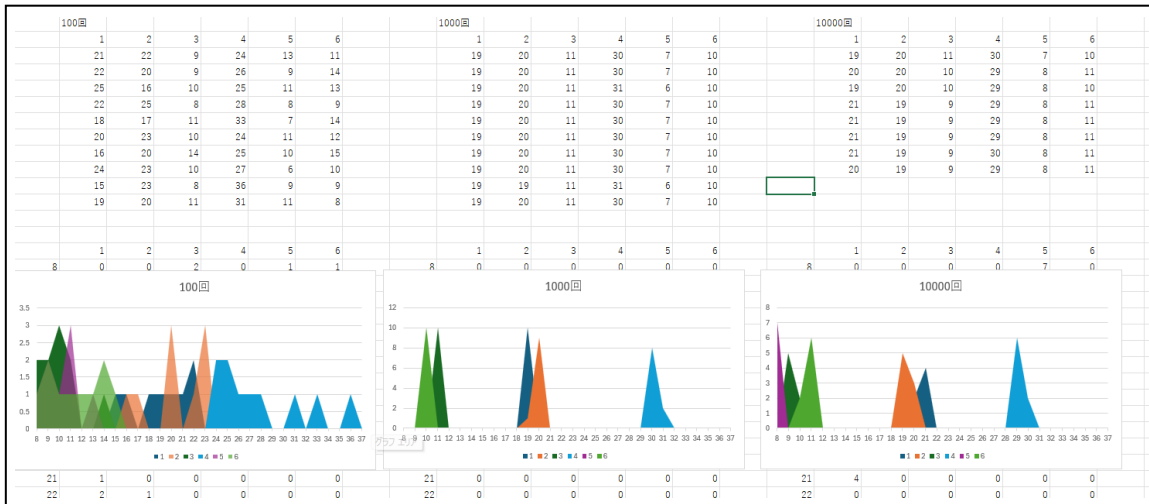
## 疑似サイコロ

ここに、1～6の整数値をランダムに出力するボタンがある。各目が出る確率はどの程度が考察しなさい。

4  
2  
4  
3  
4  
2  
2  
2  
3  
5  
2  
4

サイコロを振る！！

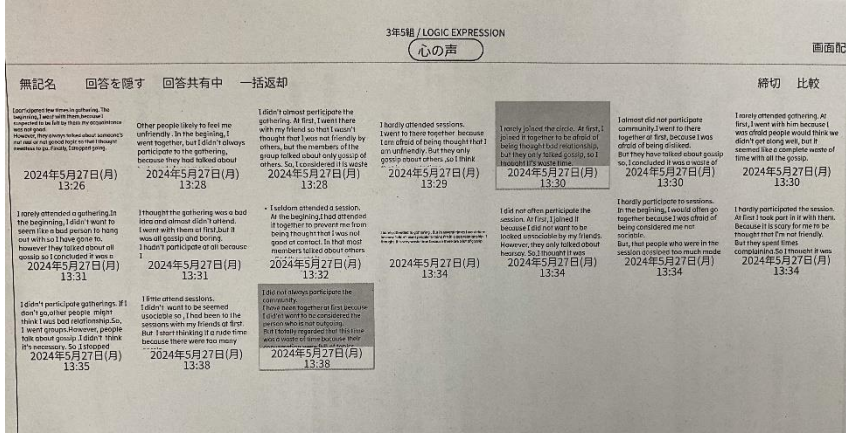
サイコロを振った回数： 100  
 1の目が出た回数： 19  
 2の目が出た回数： 20  
 3の目が出た回数： 11  
 4の目が出た回数： 31  
 5の目が出た回数： 11  
 6の目が出た回数： 8





**【英語】**

- ・本文を投影し Word や PowerPoint を利用することで解説や活動の時間を有効に活用できた。
- ・内容理解の補助のために YouTube などネット上の資料を活用した。
- ・アンケートなどは Forms を利用して効率化を図った。
- ・自由英作文の授業などで、ロイロノートを使ってアイディアの共有をした。



**【家庭】**

(1) 身につけさせたい力に応じた授業展開の工夫と改善

情報活用力：答えを示さない実験や課題を出し、教科書や資料集、インターネットを活用しながら答えを導き出す授業を実践したことで自らの想像力に加え、情報を活用する力を身につけさせる工夫ができた。

批判的思考力・判断力：世間で話題となっている「ジェンダー」「多様性」「ファストファッション」などに潜む負の側面やデメリット等を考えさせることで批判的思考力や判断力を身につけさせる工夫ができた。

協働的思考力・コミュニケーション力：たくさん席替えし、色々な生徒たちがグループワークに取り組めるよう工夫した。

(2) 指導と評価の一体化に向けた授業内外の活動とフィードバック

すべての単元ごとにルーブリックを作成し、生徒に共有しながら評価ができた。振り返りでは必要な生徒にはコメントを書き込んだり、口頭で指導することで強化することができた。

(3) ICT機器の効率的な活用方法の研究

- ① 授業プリントの9割程度はパソコン上に Up し、活用することでコストカット、なくなり防止につながった。
- ② 資料等をロイロノートに掲示することで見やすく、かついつでも見られるようにし、知識の定着を図ることができた。

